

HP 公開用説明文書

研究課題：小児神経芽腫に対する造血細胞移植後の溶血性尿毒症症候群における発症リスク因子の後方視的解析

研究の趣旨：造血細胞移植の安全性を高めることは、移植医療の発展のためには必要なことです。造血細胞移植後の重大な合併症として、溶血性尿毒症症候群（HUS）が知られており、その発症リスクとしては、神経芽腫患者さんであること、全身性放射線照射を行っていること、シスプラチンを投与されたことがあるなどが、これまでの研究で知られています。今回、神経芽腫に対する造血細胞移植後 HUS の発症のリスクを解析することによって、神経芽腫に対する造血細胞移植の安全性を高めることを目的にこの研究が行われることになりました。

研究の目的：本研究の目的は、神経芽腫に対する造血細胞移植後 HUS の発症のリスクを同定することです。

研究の方法：1982年9月から2014年8月までに名古屋大学医学部附属病院小児科および名古屋第一赤十字病院小児医療センター血液腫瘍科において、神経芽腫に対して造血細胞移植を施行した移植時18歳以下の患者を対象とします。患者さんの診療録から匿名化された情報（年齢、性別、診断年月日、病期、神経芽腫に対する化学療法・手術療法・放射線療法の情報、移植情報、併存感染症、支持療法、併用薬剤、HUS発症日、HUS発症前後の腎機能など）を集計して解析して、統計学的手法を用いて統計学的解析を行います。

研究機関：名古屋大学医学部附属病院小児科と名古屋第一赤十字病院小児医療センター血液腫瘍科です。

連絡先：本研究に関する連絡先は以下の通りです。本研究は匿名化データを使用していますので、個人情報漏洩の危険はありません。本研究における情報の使用に関し疑問がある方は遠慮なくご連絡下さい。

名古屋大学大学院医学系研究科小児科 川島希 小島勢二

〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65

電話: 052-744-2294

FAX: 052-744-2974

苦情の受付先：

名古屋大学医学部総務課

電話: 052-744-1901